

令和5年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）

（学校番号 s 51）

目指す学校像	文武において高きに挑み、深く学び、地域社会・国際社会に貢献することができる「知・徳・体」の調和がとれた人材を育成する学校
重点目標	1 自己実現…主体的に学習して自己実現を図る生徒を育成する教育体制の構築を推進 2 文武自考…主体的に取り組む生徒を育成するため活力と特色ある教育活動を推進 3 情報発信…コミュニティ・スクールとして積極的に情報発信を行い信頼される学校づくりを推進

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					評価		
年度目標					年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 進学重視型単位制、55分授業、週34単位、年8回の土曜授業というシステムが定着。現役4年制大学進学率は10年連続80%を超えており、昨年度は88.9%（過去10年で最高）。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長いコロナ禍を経て現役生は安全志向が強かったからか、昨年度より学校推薦型選抜の比率が高まった。その結果、現役4年制大学合格数は減となった。 より高みを目指し第一志望をあきらめない生徒の更なる育成が課題である。 共通テストや大学受験問題でも、思考力を必要とするものが多く出題されている。高校時代の学びが、より一層、主体的・対話的で深い学びになるよう、不断の授業改善を行う必要がある。 一方、大学入試では総合型選抜が年々増加している。大学のアドミッションポリシーを探究し、総合型選抜での受験も視野にいていくことも必要である。 	授業力向上による確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した「個別最適な」「協働的な」「探究的な」学びに全教職員が取り組み、授業アンケートで成果を個々に確認、教科研修等も実施 学校生活アンケートの改善と実施 総合的な探究の時間や各教科の授業で探究活動を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 指導力向上研修を年3回以上実施 学期毎の生徒授業評価の実施 ICTを活用した「個別最適な」「協働的な」「探究的な」学びを9割以上の教職員が実施 全教職員が観点別評価を深く理解し指導と評価が一体化 生徒・保護者アンケートの内容を改善し実施、満足度8割以上 総探の発展的再構築 一人ひとりの多様な幸せを大切にす個別最適な学びの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 指導力向上研修は授業公開週間内で教科別計2回、全体では2回実施。 各教科、学期毎の授業評価を実施。 ICTを活用した学びを全ての教職員が実施。デジタル採点システムも研修。 観点別評価を1・2年次で順調に実施。 満足度は生徒82.8%、保護者88.5%となり、8割以上を達成。 「南高2030プラン」は10回の会議を実施。来年度に向けまとめを行う予定。 総探は1年次試行を経て委員会で計画を策定、全校あげて探求活動を推進。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全年次がタブレットを持ちICTを活用した主体的、協働的な学習が実施。今後更に授業手法を研究する。 ICTを活用した授業改善に更に取り組む。 教員が講師となり研修することも必要。 外部講師を招聘しての研修も必要。市教委と要連携。
		着実なキャリア教育の推進と進路実現に向けた計画的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者へ大学進学情報提供の充実 英検等の合格率向上 共通テスト受験啓発 学習支援サービスの効果的な活用 成年年齢引下げ2年目のキャリア教育 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者へ大学進学情報提供回数の向上 模試分析会の回数と共有状況 生徒の1/3が英検2級以上保持 大学入学共通テスト受験者9割 学習支援サービスの利用状況向上と効果的な活用（個別最適化） 模擬投票の実施と生徒への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 進路通信での情報提供回数は月1回程度の発行で年10回の予定。 模試アンケート資料は各年次で共有。 共通テスト受験者9割超達成。 学習支援サービスの利用状況良好。 南区選管実施の選挙セミナーに参加。 模擬投票は実施に至らず。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援クラウドサービスの利用状況は良好。更なる活発な利用を目指す。 生徒の活用状況を確認し活発に活用できる仕組みを検討する。
2	<p>【現状】 生徒の学校行事に意欲度は95.5%、部活動が盛んである意識度98.8%と非常に高い。多様な探究プログラムの多くがコロナ3年目で復活してきた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍では部分的に生徒主体で活発に動く取組が減少した。授業、生徒会・委員会活動、部活動、学校行事など全ての活動に生徒の主体的な活動を積極的に組み入れ、民主主義を担うエージェンシーを育成する必要がある。 総合的な探究の時間を1年次より再構築し、課題設定・解決能力を育む活動に深化させる。 	主体的に取り組む生徒を育成するための特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 1年次から「総探の時間」を再構築、今後のモデル作成 コロナ禍における探究プログラム一層の充実 生徒の主体性を引き出す学校行事の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の授業においても生徒が主体的に活動する場面を設定 ICTを活用した「総探の時間」における探究活動の実践 探究プログラムへの参加生徒数向上 生徒の主体性を生かした体育祭・文化祭等の学校行事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で生徒が主体的に活動する場面が増加しつつある。 教科横断的な探究活動の実施は少数。 社会探検工房として21名の生徒が羽田空港のバックヤード業務を見学し好評。 体育祭・文化祭では制限なく保護者・外部来場者を受入れた。生徒主体の学校行事実施が着実に増加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総探の時間に注力するため時間的、人員的な体制を整える。 総探を3年間見通した形での計画が完成。実際に実施し成果を上げたい。 授業に探究活動を更に積極的に組み入れる。
		部活動の充実と安心安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を引き出し、達成感を感じさせる部活動の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の部活動への加入率と満足度の更なる向上 生徒主体の活動を一層推進 保護者費用負担の軽減を図りつつ効果的な活動を展開 各部活動の大会等の結果向上で、中学生に大きくPR 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率は88.4%、盛んであると感じているのは98.7%。部活動の合宿や遠征も活発に実施。 サッカー部は夏・冬とも県準優勝。多くの部が全国・関東・県大会に進出。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文武自考、部活動と学業の両立を更に生徒に浸透させ、進路に生かす。 顧問・生徒・保護者が勉強時間確保の意識を持つよう粘り強く努める。
3	<p>【現状】 地域社会と連携したコミュニティ・スクールとして徐々に以前の活動が戻りつつある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校教育活動への理解をさらに深めてもらうため、より一層の地域に開かれた信頼される学校づくりの推進が必要 生徒募集を見据えた更なる情報発信の充実を推進 生徒募集活動の活発化 	コミュニティ・スクールとして開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携推進 学校運営協議会との連携・協働の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携方法と回数の向上 学校運営協議会を通して地域と有益な連携・協働の実施の有無 学校施設開放180回超 	<ul style="list-style-type: none"> 連携はほぼコロナ禍以前の活動に戻る。 近隣小学校とのサッカー部による連携事業が好評。今後も継続して実施予定。 南区ふれあいフェアに複数部活参加。 学校施設開放200回超。（12月末） 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナとインフルエンザの感染拡大も起こる。連携・協働を安全に進める必要あり。 学校施設開放は継続し地域に根差したものに。
		積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な学校広報活動の推進 学校HPの更新や新たな学校情報発信 進学フェア等への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 学校広報活動の回数増加 中学校見学会受入回数の増加 志願倍率過去3年間平均1.3倍超 学校HP更新回数 生徒への安定した情報発信 保護者へは安定したメール配信 学校説明会を工夫 近隣塾等へ情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 志願倍率過去3年間平均1.3倍超見込。 学校HPは平日毎日更新。 必要なメールは適宜発信。生徒にクラスで情報発信も活用。 学校説明会では在校生や卒業生の話を入れ、参加者から好評。 近隣塾等への情報発信は課題。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の魅力を更に発信する方策を検討、生徒募集につなげる工夫が必要。 学校説明会の工夫、塾への説明実施、効果的な情報発信など更に努力。

学校運営協議会による評価	
実施日	令和6年2月5日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて、生徒としっかり共有してほしい。 授業環境を整備するため、黒板をホワイトボード化し、プロジェクターを高輝度化することにより、より見やすくなり、生徒の視力低下を防げるという意見もあるので、早めに対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒の進路実現に向け、より高みを目指すような取り組みを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を活用したカリキュラムマネジメントを今後も研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしい結果が出ている。今後も引き続き指導を継続してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を評価。今後も引き続き連携を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な生徒募集の成果が出ている。 本校の魅力をもっと発信するため、入試制度の変更を踏まえ、生徒募集のやり方についてブラッシュアップしていく必要がある。